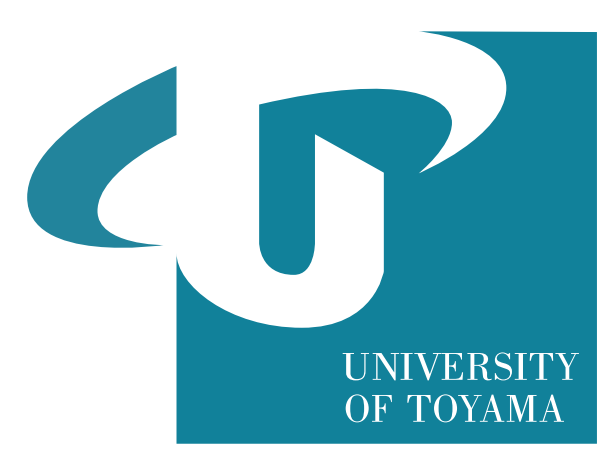




富山大学 地域再生塾「高度差4000」 VOICE



塾生インタビュー 各々のプロジェクトに取り組む塾生たちの声

企業人コース



有限会社 水文

水上 剛 Mizukami tsuyoshi

高度差4000 資源循環を富の循環へ
(シロエビの殻を農業に活用)

当初は地域再生塾の存在は知らなかったが、金融機関の支店長に誘われ参加しました。平成21年度の本格事業だけでなく、平成20年度の施行事業にも参加しているので、どうしたら「高度差4000」を自社の強みに活かせるか考えて受講でき、他の塾生のビジネスプランがヒントとなって、新プロジェクトを考案しました。

大学&金融機関の支援を受け、第3回とやまビジネスプランコンテスト、平成22年度富山市ヤングカンパニー大賞で奨励賞を頂き、富山県の助成金にも採択され、現在プロジェクトを稼働させています。



五洲薬品株式会社

土合 寛之

Doai hiroyuki

深層水活用による里山保全に資する
海山連携型食品開発

金融機関に地域再生塾を紹介され、上司の命を受け参加することになりました。講義等を聴いて、「高度差4000」のコンセプトが自社の強みと合致していることに気づき、演習・ゼミナールを通して自社の強みを活かした「高度差4000」ビジネスプランを策定できました。

他の塾生&金融機関から材料調達の方法についてアドバイスを貰い、ヒアリング調査と一緒に行動して頂いたことで、今回弊社の新たな商品開発へと繋がりました。

行政人コース



ユニオン産業株式会社

澤井 勇 Sawai isamu

小水力・バイオマス活用による
低炭素地域づくり

日ごろから、地域活性化、少子高齢化、環境・山間地問題などに危機感を抱き、自社の強みであるものづくりの視点から何かできないかと考えるなかで、経営者仲間から誘われこの地域再生塾に参加しました。多様な講師陣の講義全てに繋がりがあり、「富山」を深く知ることができ、視野がとても広がりました。

一方で、演習・ゼミナールを通して自分が何をすべきか頭の整理ができ、ものづくりを活用した地域活性化の設計図を描きました。今後、中小企業が様々な団体と連携して地域貢献できる仕組みを大学と共に考えていきたい。



魚津市

前田 久則

Maeda hisanori

地域資源を生かした
まちづくりプロジェクトチーム

魚津市では、地域活性化事業の提案という命題を与えられてプロジェクトチームが編成されました。兼務による活動であり、本業との頭の切り替えに苦労しました。そんな中、チームとして地域再生塾に参加し、産・学・金・ITの講師陣により、社会の動きやニーズを感じることができました。

提案事業は、市総合計画に「魚津の水循環」として組み込まれ、23年度から実践していくことになり、自分たちの成長も感じることができました。

支援者の声

高度差4000に期待すること



魚津市

稲村 修 Inamura osamu

当初、大学との連携で成果を出すことには疑問を抱いていたが、地域再生塾を進めていくなかで、大学が入り込むことによる有用性を認識し、魚津市で地域再生塾を開催することで、大学のサテライトキャンパスを魚津に持ってくるイメージを持っています。

地域再生塾では、塾生自らニーズを拾い集め、プロジェクトの企画・立案をし、実践することを学んでほしいです。その際、どんなに小さなプロジェクトでも、成功事例(アウトプット)を必ず出してほしいと願います。



富山ライトレール株式会社

塚本 紘己

Tsukamoto hiroki

大学との協働型事業(ワークショップ)の実施をきっかけに、平成20年度の施行事業に参加しました。その後、国の緊急雇用創出事業で人を雇い、その職員を平成21年度の本格事業の塾生として派遣し、大学への人材派遣による人づくりを今回実践しました。

こうした経験から、地域再生塾は、大学の敷居が高いと感じる方にとっての良い入口になり、多様な講師陣及び塾生とのネットワークが生まれ、産学連携や産産連携のきっかけになると感じました。